

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0472400308
法人名	医療法人 掬水会
事業所名	グループホーム しんまち
所在地 (電話番号)	宮城県亶理郡亶理町字新町41番9 (電 話) 0223-32-8507

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 9 月 19 日

## 【情報提供票より】平成 20 年8月29日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人 非常勤 1 人	常勤換算 7.8人

### (2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	木造	造り
	1 階建て	1 階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有( 円)	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	270 円	昼食 380 円
	夕食	550 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 1,200 円		

### (4) 利用者の概要( 9月16日現在)

利用者人数	8 名	男性 3 名	女性 5 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名
要介護3	2 名	要介護4	3 名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢	平均 85 歳	最低 77 歳	最高 92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	板橋胃腸肛門科, レインボー歯科クリニック
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

駅から徒歩5分と便利な町中に、デイサービスと併設してグループホーム「しんまち」がある。事業所のアピールしたい理念は「笑顔で楽しく寄り添って自分らしく共に輝いていこう」をうたっている。全職員は申し送りの際に理念を唱和し、日々の実践の中に活かしている。ホームの近くには24時間対応してくれているクリニック(かかりつけ医)があり、家族アンケートからも病院がすぐ側にあり安心との声が寄せられている。近くには立派なお庭があり庭先のベンチで休ませていただき、自然の風に触れたり気分転換にもなる散歩道がある。地域の方々に支えられ、「傾聴、受容、共感」を行動規範として支援の輪を広げていただきたい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p><b>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>前回の要改善点については、①運営推進会議は改善され、2ヶ月に一度開催されて運営に活かされている。②遠方の家族とは疎遠になっていたが連絡が取れる関係になり計画を作成している。③看取りについては、話し合いは行われてはいるが方針や指針の成文化されたものは無く、医療加算の準備中である。④行事での外出は行われているが、日常生活動作低下により難しくなった方へ併設するデイサービスの車を借りて日常の外出支援を行っている。</p> <p><b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>全職員は評価の意義を理解しており、時間をかけて全員参加で取り組んでいる。作成してみて日ごろのケアを再認識し、色々な気づきの部分が見えた。改善点については、事業所の体制も含め努力して行きたいとしている。</p>
	<p><b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</b></p> <p>会議は4ヶ月に一度位開かれていたが、改善されて2ヶ月に一度開催されている。会議には8名のメンバーが参加し、事業所報告・意見・要望・質疑応答など議事録に記載されている。介護教室開催に向けて会議で理解を求め、協力をお願いして、地域住民との交流の場となるよう努力していただきたい。</p>
重点項目②	<p><b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</b></p> <p>家族の意見や要望、苦情はホームにとって貴重な情報源であることは職員も理解している。玄関先に意見箱を設置したり、第三者委員に南区民生委員を委嘱して、運営推進会議や行事等の際に、いつでも気軽に相談してもらえる雰囲気作りに努めている。</p>
重点項目③	<p><b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b></p> <p>町の自治会に加入し、運営推進会議には区長や地域の住民も委員として出席している。地域の一員として災害時の避難場所を提供したり敷地内に「ごみ収集所」を置くなど、ごみ当番には職員も加わっている。また、地域の敬老会やいも煮会にも参加して地域住民との交流を図っているが、更なる行事への参加に取り組んで行きたいとしている。</p>
重点項目④	

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「笑顔で楽しく寄り添って自分らしく共に輝いていこう」を掲げている。一年前にシルバーグループ理念を元に親しみの持てる理念をと全職員で話し合い見直しを行っている。地域密着型サービスとして職員は良く理解をしているが「地域生活の継続」や「地域との関係性強化」をうたった理念もお願いしたい。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの目の届きやすい場所数ヶ所に理念を掲示しており、申し送りの際には唱和するなど職員の理念に対する意識の高さがうかがえる。また、理念は日常のケアに活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として町内会に加入し、総会にも出席している。災害時の避難所として地域に場所を提供したり、敷地内の一角に「ごみ収集所」を置くなど、ごみ当番には職員も加わっている。敬老会やいも煮会にも参加し、地域住民との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解しており、自己評価には時間をかけて全員参加で取り組んでいる。作成してみて日ごろのケアを再認識し色々な気づきの部分が見えた。前回の改善点については、事業所の体制も含め努力を行っていきたいとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。会議は地域住民3名、家族1名、行政2名、ホーム側2名のメンバー8名で行われ、管理者から入居者の日常生活状況月例行事等の報告があり、意見や要望、質疑応答など議事録に記載されている。また、介護教室開催に向けて推進会議で理解を求め協力をお願いもしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は社会福祉協議会に勤めていた事もあり、市町村の動きや情報収集など連携は取れている。また町の担当者は、運営推進会議のメンバーでもあり顔馴染みとなり相談や助言をいただいている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「しんまち便り」を毎月写真入りで発行し、日常生活の様子や行事等を家族へお知らせしている。入居者の姿が見られ、健康面も分かり嬉しいとの声も聞かれている。小遣いの状況や職員の異動等はお便りで報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望・苦情は、ホームにとって貴重な情報源であると職員は理解している。玄関先に意見箱を設置したり、第三者委員に民生委員を委嘱してサービスの質の向上に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は比較的少ないが、認知症のケアには職員の馴染みの関係は大切であり、異動が生じた時は引き継ぎに時間をかけるようにしている。また入居者に不安を抱くこと無くダメージを最小限に抑えるよう心掛けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者はスタッフの質の向上に力を入れており、認知症介護基本研修には3名を一週間かけて受講させている。研修した内容は学習会で発表し、職員全体で共有をはかっている。また、資格を取得した場合は処遇を考慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会に加入している。同法人のグループホームと情報交換を行ったり、地域の福祉関係者とも月1回の勉強会に参加している。また交流会にも加わりストレス解消にもなっている。来年は県の協議会の研修や交流にも一層力を入れていただきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスを納得した上で利用していただくために、入居前に職員が本人の自宅を伺い本人の思いや気持ち、これまでの生活歴等を本人と家族から聴いて話し合いをしている。できればホームにも来てもらい、生活の場の雰囲気にも馴染むよう家族の理解や協力を得られる工夫をお願いしたい。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ヒアリングからは、人生の大先輩として尊敬の念を持って接している。入居者の方から洗濯物のたたみ方や料理のおくづかけ、正月の七草粥を作る時の唄など教わっている。また、男性の方からも各居室の表札に筆で名前を書いていただき感謝している。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「職員一同ホームの家族の一員として、思いやりや支え合いの心を忘れず入居者と共に輝いていたい」として、職員は日々の生活の中で入居者と思いを共有している。また、東京センター方式を使って個人情報把握し、本人本位のケアに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人が地域でその人らしく暮らし続けるために、チームケアで作る介護計画は必要であり、本人の意思や思いをセンター方式で把握し、家族の要望や職員の気づきなど具体的な個別計画となっている。家族からも本人の意思が計画に組み込まれているとしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のミーティング等で介護計画について話し合っている。また、実施期間(3ヶ月に1回)ごとに本人や家族と話し合いをし、現状にあった介護計画になるよう見直しを行っている。急変があれば、その都度ケアプランの見直しをして家族に同意を得て渡している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が対応できない場合の通院は、隣接するデイサービスの車を借りて支援している。行事の外出や外泊の支援も柔軟に行っている。管理者は小規模多機能的なサービスの主旨は理解しており考えもあるが、課題もありショートステイ、デイサービスの実践までは至っていない。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者は全員近隣のクリニック(かかりつけ医)で診てもらっている。いつでも対応できるようにと医師の携帯から24時間連絡体制で指示を受け支援してくれている。家族は近くに病院があることで不安は無いと言っている。また、協力医療機関との連携も取れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者や職員は終末期による看取りは大切と考えている。医師や家族との話し合いは行われており、医療の加算も準備中である。今は緊急時(怪我等)は併設のデイサービスの看護師から応援や助言を頂いているが、重度化や終末期に向けての方針や看取りの指針は成文化されていない。	○	重度化や終末期に向けての入居者や家族は、人生の最後をこの住み慣れたホームを希望した場合には、できるだけニーズに応えられる様にさせていただきたい。そのためには医療体制を整備して、職員も不安なく納得のいく看取りができるように、主旨を理解しながら入居者や家族、関係者等と話し合いをしていただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の大先輩として尊敬の念を持って接しており、一人ひとりを尊重した呼び方で対応している。個人情報保護法の主旨は職員全員周知しており、個人のケース記録等の取り扱いには十分な注意をはらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、入浴、食事などの個別ケアは、その人の生活リズムに配慮して柔軟に対応している。希望に添うかたちで午前中はラジオ体操など無理強いせずにできることをしてもらっている。また、散歩や買い物も希望に添って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は併設するデイサービスの栄養士の指導の下、入居者の好み、食べたい物を聴き旬の材料や新鮮な食材を取り入れている。三食を納豆の方、玉子焼きはしっかり焼く、刺身の嫌いな方には別な魚で補い、その人のスタイルに合わせ職員の見守りの中で一緒に和やかな雰囲気ですべてを楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけ本人の希望に配慮して入浴を楽しんでいる。夜中でも入浴したい方にはシャワー浴や足浴で対応し「入って気持ち良かった」と言ってくれる事が励みとなっている。入浴を拒む人には声掛けや対応の工夫をしている。また、入浴のできない方にも必ず清拭を行い清潔を保持している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯のたたみは私の仕事とばかりエプロンをして、乾いた物を大小の大きさに合わせ綺麗にたたんでいる。また、ぬり絵は入居者の声掛けにより他の入居者も一緒に楽しむようになった。習字の上手な方には各居室の表札に筆で名前を書いてもらい喜ばれている。入居者のできる事を一緒に楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くに広い立派なお庭のお宅があり、ベンチ2つとパラソルが置かれいつでも提供してくれている。気晴らしや気分転換にもなり、庭先のベンチで休ませていただき、自然の風に触れ季節感も味わえる気持ちの良い散歩道となっている。また、ぶらりと荒浜の足湯にドライブし足浴を楽しんでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関先に鍵は掛けておらず、センサーもない。全職員は見守りや気配りをしながら入居者の所在を把握し、鍵の掛けないケアを実践している。また、近隣の方々にも理解を求め、見守りや声掛けの協力をお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指示の下に防災訓練を年2回行った。救命救助法(AED、心肺蘇生等)の受講もして、AEDはすでに設置して入居者の安全確保に力を入れている。マニュアルに沿って地域との連絡体制は取れているが、特に夜間を想定した避難訓練や地域と連携した訓練は行われていない。	○	深夜のひとり勤務の際に、宮城県沖地震のような大災害の時でも入居者を慌てず不安なく誘導ができるように、夜間を想定した訓練を職員と入居者が一緒に行い、また、地域の避難場所でもあるので自治会と連携した訓練もしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定は、月に一度第2土曜日に行われている。食事や水分の摂取量を記録し、一人ひとりの健康状態を把握している。併設の栄養士の助言や指導もあり、高血圧の方も食事で落ち着いて来ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井の高い広い居間は、すすきやもみじが白い壁にさりげなく飾られ、季節を感じさせてくれる明るい清潔感のある共用空間である。廊下の幅も広く、行き交う車椅子もスムーズである。ホーム内の所どころには湿温計が置かれ一日2回の窓を開けての空気の入替えにより常に爽やかな居心地のいい共用スペースとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使いこなしている馴染みの品、机、椅子、孫の作ったテーブル等家族と相談をし持ち込まれている。テレビは昔からの自分のものを持参し、今でも好きな番組を、好きな時に自由に楽しまれ、ごく、当たり前の自分の居場所となっている。		